



平成28年度の始まりにあたって

院長 木実谷 哲史

5月1日に島田療育センターは55歳の誕生日を迎えます。日本で最初の重症心身障害児を対象とした入所専門の施設として設立されましたが、その後リハビリテーション部門、外来部門、デイケアセンターと在宅支援や地域支援にも力を注ぎ世の中のニーズに応えてきました。しかし、昨今の法律・行政上の大変化に伴う新しい経営手法への対応と、センター自身の55年の経過による建物の老朽化への対応が喫緊の課題となっています。島田療育センターではこれからのセンターを担

う中堅、若手の職員で経営企画室という部門を立ち上げ、在宅の重症心身障害児・者や地域の施設への協力をはじめとして、これからのニーズに応えられる新センターの建設を中・長期の大きな目標としたいと思います。平成28年度方針として「療育を見つめなおし、組織力の強化、経営の安定化を図る」を掲げました。以下の1から4の項目を軸にみんなで力を合わせて進みたいと思います。職員一丸となって前進しましょう。

平成28年度の方針 療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

1 収入の増収、経営の安定化**3** 新センター建設構築案作成**2** 業務の見直しを図る**4** 研修・研究の充実を図る

平成28年度

主な行事予定

- 4月 第55回創立記念式
- 6月 運動会 (1病棟)
全体活動 (2・5病棟)
大遠足 (3・7病棟)
島田療育センター集談会
- 9月 島田わいわい祭り
- 10月 全体活動 (1病棟)
大遠足 (2・3・5・6・7病棟)
合同防災訓練
- 11月 島田療育センター集談会
- 1月 成人・還暦のお祝い
- 2月 公開シンポジウム
- 3月 総合防災訓練

その他イベント予定

CAPP、各種コンサート、各種講演会 (セブンクローバー)、多摩市障がい者美術作品展…など

平成28年度

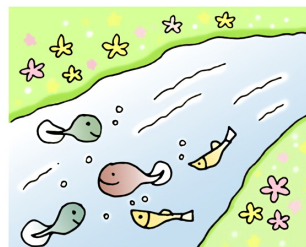
就学状況

平成27年度は多摩桜の丘学園高等部を2名、中学部を1名が卒業しました。

平成28年度は小学部に1名、高等部に1名の入学が決まりました。
在籍数は以下の通りです。

東京都立多摩桜の丘学園在籍数 (4月1日現在)

	本校	分教室	総数
小学部	0名	6名	15名
中学部	1名	4名	
高等部	2名	2名	



島田療育センターはちおうじ 創立5周年記念講演会

島田療育センターはちおうじ 所長 小沢 浩

ー「輪」を「和」でつなぐー

この理念のもとに、島田療育センターはちおうじ（島はち）は、平成23年4月4日に歩みを始めました。その歩みも、あっという間に五年がたち、2月27日、「いのちについて考える」というテーマで、島田療育センターはちおうじ5周年記念講演会が、多摩の島田療育センターで開かれました。

「いのちのケアセンター」センター長・子どもを亡くした親と家族を支える会（星の会）代表の武田康男先生は「初めの愛・応えること・希望」、昭和大学さいかち学級の副島賢和先生は「涙も笑いも力になる」というテーマで、「いのち」について、話してくださいました。お二人とも、たくさんの「いのち」のストーリーを語ってくれました。

武田先生は、口唇口蓋裂、ダウン症のお子さんが生まれたときに、まず駆けつけて「心からご出産おめでとうございます。」と伝えます。家族の不安に寄り添っていきます。いのちの支援としてのカウンセリングは、「祝福と共感をもってそこにいる」「問題の理解（事実を知る）を共有する」「希望（解決の道筋）をともに抱く」であると話してくれました。

副島先生は、院内学級の子どもたちの作文を紹介してくれました。そのうちの一つに、幼い時から内臓疾患を抱え、手術を何回も繰り返した男の子の作文を紹介していました。



「ぼくは幸せ」

お家にいられば幸せ
ごはんが食べられれば幸せ
空がきれいだと幸せ
みんなが
幸せと思わないことも
幸せに思えるから
ぼくのまわりには
幸せがいっぱいあるんだよ

この詩を書いてしばらくして、男の子はお星さまになりました。

二人が、共通して語っていたのは、「Do」と「Be」です。「何かをする」ことだけではなく、「ともにいる」ことが大切であるという複眼的視点を持つこと、存在していることの価値を説いてくれました。申込みだけで120名、スタッフを入れると150名近くの方々が集まってくれました。

ー「輪」を「和」でつなぐー

島はちをつないでくれていたのは、皆さんであることを実感した幸せな一日でした。新たな旅立ちのはじまりです。皆さん、よろしくお願いいたします。

医療安全講習会を開催

今年度最後の医療安全講習会が2月22日、3月1日の午後1時30分から開かれ、当センターの臨床工学技士が医療用ガスについて話をしました。島田では重症の方が多く普段身近なガスですが、一旦事故になると思いがけない惨事を引き起こしてしまいます。特にガスの種類、種々のコネクターや流量計など、間違いのもととなる要素が多く、十分な注意や確認が欠かせません。

出席者は2回合わせて272名で、約7割の出席率でした。医療安全の確保のために、病院や施設での教育啓蒙が要求される昨今、さらに出席率を上げるため、出席しやすいよう、開始時刻の変更や時間の短縮などを考慮変更していきたいと思えます。

（副院長 医療安全対策部部長 磯田 功司）



島田療育センターへの ～想い～

島田を支える力

リハビリテーション部
臨床心理科 科長 若松 育子

就職したきっかけ

私が島田療育センター（当時は島田療育園）に就職したのは20年以上も前のこととなります。就職活動当時は漠然と『心理の仕事につきたい』とは思いつつも、具体的にどのように就職先を探すのかもよくわからず、一般企業の就職試験なども受けたりしていました。就職のきっかけといえば、本当に偶然に島田療育園の心理判定員の募集を見つけ、受けてみたら雇っていただけ、ということだと思えます。就職面接では当時の科長に「ここに決まらなかったらどうするの？」と質問され、「また就職指導課で探します」などと、のん気に答えていたことを覚えています。

そんなスタートでしたので、就職してからが当然大変で、専門的なことについてはもちろん、入所されている皆様との接し方、職員としての働き方など知らないことばかりで、先輩方や同僚達に教わる毎日でした。

就職してよかったこと

就職してしばらくは、『自分には一体何ができるか』『何をしたら良いか』を模索し続け、何か結果を残さなければといった焦りも感じていました。しかし、利用者の皆様と一緒に過ごしていく中で、自然に、そして自分の気持ちに素直に生活されている姿に接し、私の肩の力もほどよく抜け『私が何かをする』と思うのでは

なく、『皆様が望まれていることのお手伝いをしよう』と思うようになりました。そして『どのようなお手伝いができるか』を考えるようになりました。好きな活動に集中できる姿勢や環境はどのようなものかを考えたり、わずかな動きでも遊びを楽しめるようスイッチや玩具を作ったり、好きなことを充分楽しんでいただけるような時間を作ったりしてきました。

そもそも、私は小さい頃から人との付き合いが自然にできない子どもでした。だからでしょうか、人と関わったり、お話できたりすることにすごく喜びを感じていました。人と関われることは幸せなことです。私は働きながら人との関わり方を学び、出会った方々から人としての生き方や在り方などを学ばせていただいていると思っています。

今の仕事に対する想い

時の流れによってセンターに求められることも大きく変化し、仕事の内容などもずいぶん変わってきました。今まで民間の資格であった心理職もようやく『公認心理師』として国家資格となることが決まり、また大きな変化を受け止めていくこととなります。でも、ご相談される皆様のお気持ちに寄り添うこと、そして、お子さんへの支援はもちろん、親御さんへの支援、さらには地域でお子さんに関わっていらっしゃる方々への支援を考えていく、といった根本的なところは変わらないと思います。より良い生活を送っていくための選択肢をご提案していけるよう、私も様々な視点を身に付けていきたいと思っています。そのためにも、気持ちや考え方も柔軟でいられるように心がけていきたいと思っています。

国士舘大学体育学部

介護等体験実習の受入れ



「利用者様が笑った時、自分も嬉しくなりました。」そう語ったのは筋肉隆々の柔道部の学生さん。素直な表情が印象的でした。平成28年度で受け入れ17年目となる介護等体験、これまでに島田を訪れた学生さんは約5,000人にのぼります。利用者様を通して様々な体験をし、「人との関わりを見つめなおしていく人・

介護分野に興味をもつ人・残りの学生生活を大切に過ごす人」と、ひとりひとりが自分の課題を見つけて帰っていきます。やがて社会に巣立つ学生さんが、心身共により一層大きく成長していくためにバネのような役割をはたすことができれば…。そのような思いで平成28年度も5月から12月に236名の学生さんを受け入れます。
(療育長 岩井 理)



ちよつとひと息

「旅」。なんだか、いい言葉だと思う。「旅行」ではなく「旅」。僕は19歳の時に初めて、ヨーロッパ一人旅をした。そこから旅の魅力にどっぷりとはまってしまった。旅は自由で、何が起こるかわからない。

旅の魅力は、何といっても人との出会いだ。バックパックを背負って、ふらふらしていたら海外では結構な確率で声をかけられる。そのまま仲良くなって、家でご飯をご馳走になったこともあった。国によっては物価が安くて、東南アジアの国では1日1000円あれば食べて、飲んで、寝ることができた。

でも、いい話ばかりかというとなんなこともない。騙そうと近づいてくる人も多し、町は結構汚い。東南アジアの田舎では、トイレトーパーがなくしてお尻を手で拭かないといけない局面もあった。お尻を手で拭いたら大半のことは乗り切れる、と私は思う。

日本は治安は良いし、飯はうまいし、町にはゴミが落ちてない。改めて日本の素晴らしさを感じる。さあ、旅に出よう。お尻を拭いたら人生変わりますよ。(作業療法士 田村 皓平)



島田の動きあれこれ

◆医療安全講習会 記事掲載

3月1日(火)に行われました。

◆総合防災訓練

3月11日(金)に行われました。

3月のほっとステーション

今月のテーマは 「冬から春へⅡ」



今号より隔月発行になります

これまで毎月島田療育センターの出来事をお知らせしてまいりましたが、今号から隔月の発行となります。また、掲載記事の内容を見直し、広く当センターの動向をお伝えできるよう掲載内容を再構成します。内容を整理することによって、最終的には年4回の季刊誌を目指して進めております。

発行の頻度は減りますが、島田療育センターの広報誌としての質を高め、皆様に最新の情報をお伝えできるよう努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成28年度 編集委員

- ◇ 高橋 節夫 (療育部)
- ◇ 宮田 雅美 (療育部)
- ◇ 中野 智子 (医務部)
- ◇ 岸水 美知恵 (事務部)
- ◇ 神田 水太 (支援部)

入退所 状況

平成 28年 2月	入所	退所
長期	1 名	0 名
短期	14 名	13 名
緊急一時	19 名	19 名
医療緊急	1 名	1 名

お知らせ

◆創立記念式典

4月27日(水)に行われます。

◆イベント情報メールマガジン

島田療育センターで行われている各種イベントの情報をメールマガジン形式でお知らせします。ホームページまたは右のQRコードから空メールを送ってご登録ください。



発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター

住 所 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <http://www.shimada-ryoiku.or.jp>